

企業概要

- 本社 佐賀県嬉野市嬉野町下宿乙1938番地
- 設立 1947年
- 資本金 1,000万円
- 代表者 代表取締役社長 徳永 和久
- 従業員数 5名
- 業種 食品製造業
- 事業内容
 - ・ 嬉野茶の製造・販売
 - ・ オンラインショップ運営



脱炭素経営の背景とスローガン

■ 脱炭素経営のきっかけ・背景

2019年、社会問題の専門家から話を聞いたのがきっかけです。そこで環境や人権の問題を知りました。

その後、令和元年及び3年の豪雨被害で茶畑が崩落しました。ほか毎年のように県内で起きる干ばつや高温障害を経験し環境を守らないと地場産業を続けられないと意識するようになったのが取り組みのきっかけです。



代表取締役社長 徳永 和久/徳永 ヴェラ

■ GXスローガン

うれしい明日を嬉野から世界へ

このスローガンには、おいしい嬉野茶を次世代へ、そして世界へ届けたいという思いがこめられています。

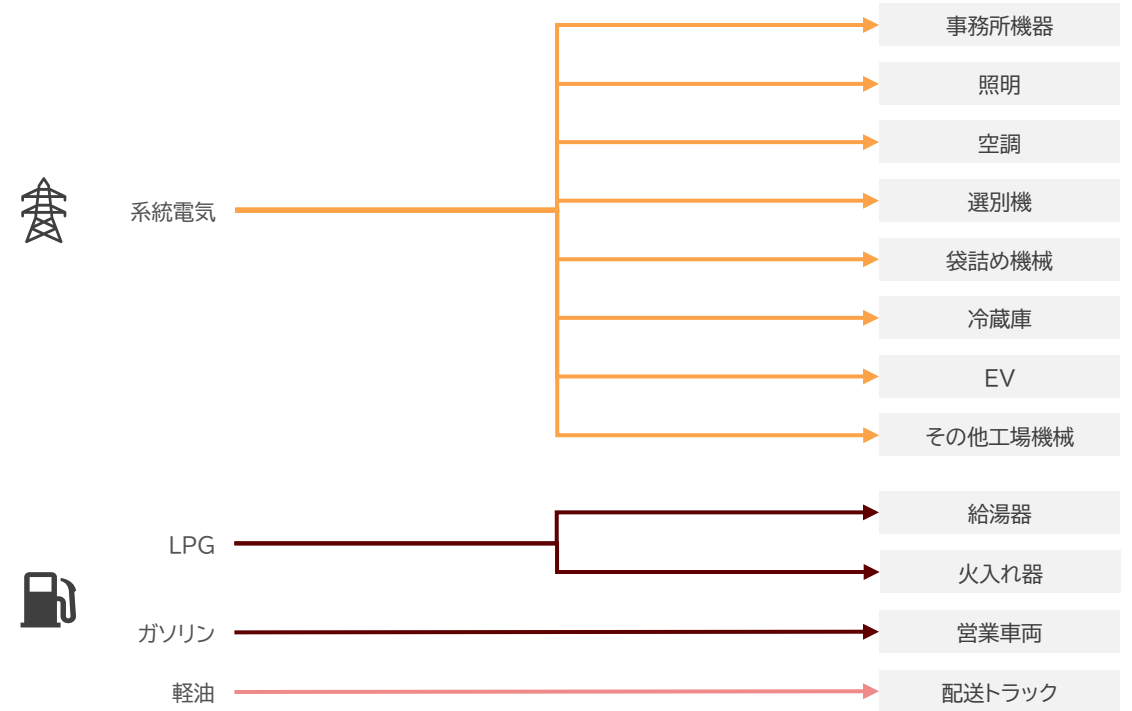
スローガンの策定は社内でのワークショップを通して行い、社員の環境意識向上や自社のGX方針に対する理解度向上の機会となりました。スローガンは社内に展開し、社員全員で身近な取組から進めていきます。



エネルギー使用状況の可視化

■ エネルギーフロー図

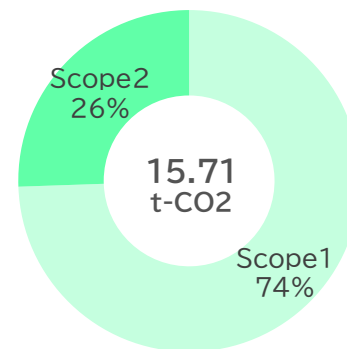
当社では、照明空調や工場設備、EV車両で電気を消費しています。茶葉の仕上げをする火入れ機ではLPGを使用しており、一部の車両で軽油、ガソリンを消費しています。



■ 自社排出量の内訳

2023年度の自社活動によって排出された温室効果ガス量の合計は15.7トンでした。これは、杉の木のCO2吸収量/年に換算すると約1,065本分になります。

当社のGHG排出量内訳は、自社で使用する燃料由来のCO2排出量(Scope1)が11.7t-CO2、他社から供給された電気・熱使用由来のCO2排出量(Scope2)が4t-CO2です。Scope1 LPGの使用が最も大きな排出源となっています。Scope2の削減のため、当社では一部再エネプランを適用しています。



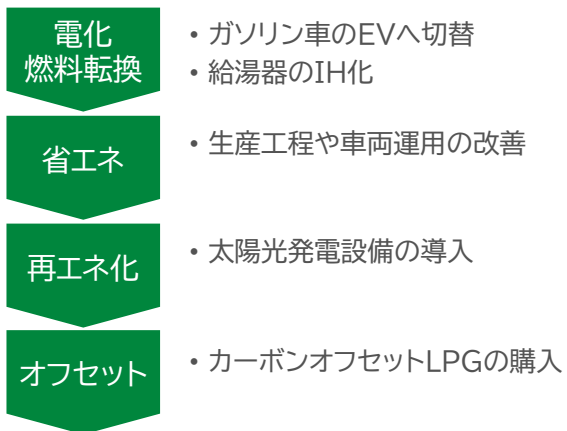
15 t-CO2 = 杉の木 1,065本が1年間で吸収するCO2量

部門	エネルギー種別	年間使用量	CO2排出量
Scope1	LPG	2.1 t	6.1 t-CO2
	ガソリン	1.8 kL	4.1 t-CO2
	軽油	0.9 kL	1.5 t-CO2
Scope2	電気	32,503 kWh	4 t-CO2
合計			15.7 t-CO2

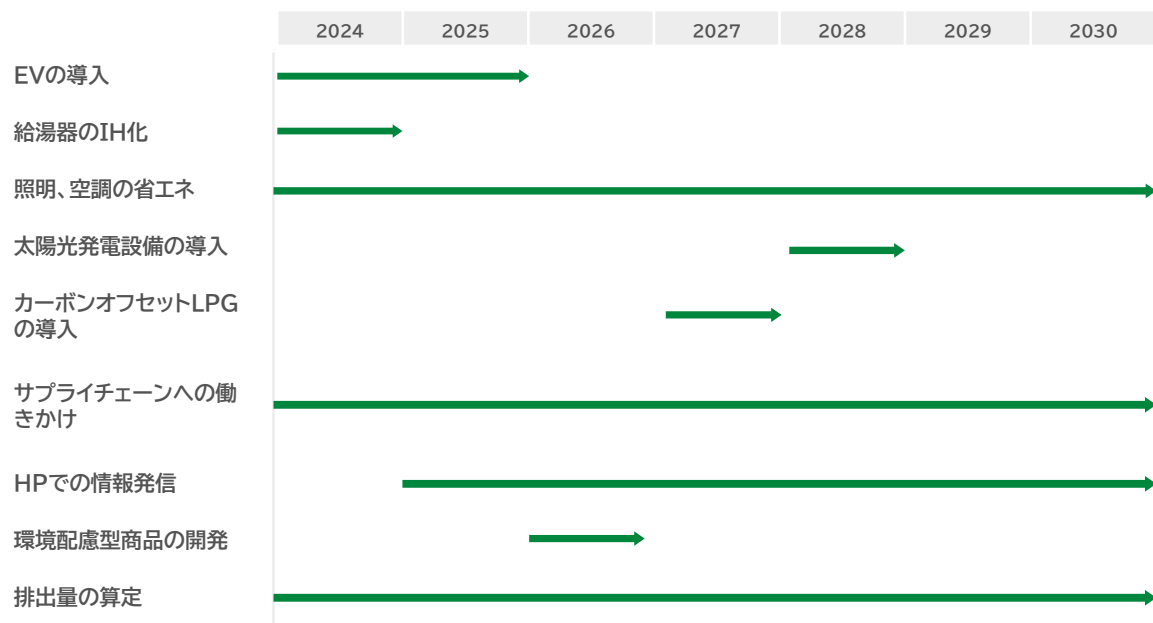
自社GHG排出量の削減に向けた取組

削減計画の策定

削減の流れ



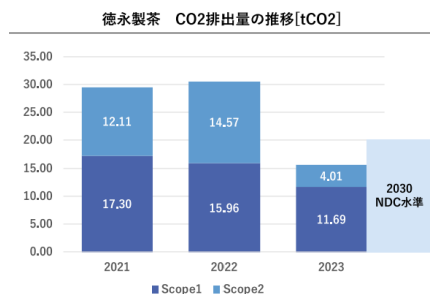
削減目標：2030年度までに42%削減(2021年度比)



実施施策のご紹介

2021年から2023年までの削減施策と実績

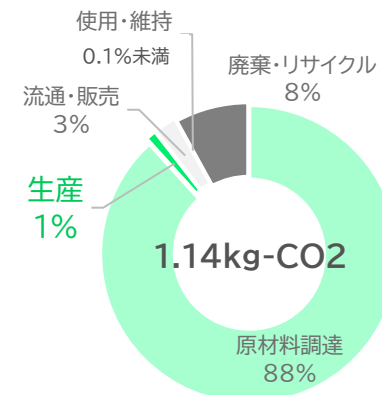
2021年からEV導入、運転管理、生産工程の改善、省エネ活動などを行ってきました。例えば車両の運用管理では、エネルギー効率を考慮して利用車両の割り振りなどを行いました。それ以外にも照明のLED化なども完了しました。それにより2021年の排出量はScope1が17.3t、Scope2が12.1tだったのに対し、2023年にはScope1が11.7t、Scope2が4tと約47%の削減を行いました。



CFP算定取組

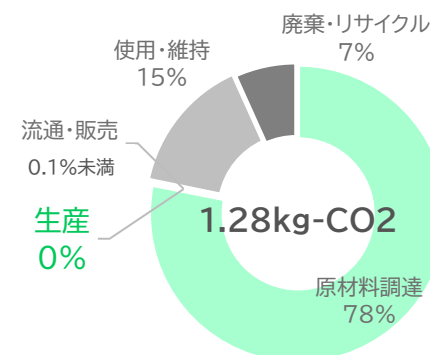
CFP(カーボンフットプリント)とは商品やサービスのライフサイクル全体で排出される温室効果ガスの量を追跡し、CO2に換算して表示する仕組みです。「水出し煎茶」と「玉琳」の2製品のCFPを算定しました。

水出し煎茶



再エネの使用・カーボンオフセットにより、自社工場内での生産に係る排出量は**実質ゼロ**です
※水出し煎茶の一部の生産工程は自社外で行っています。

玉琳



中小企業版SBT認証

中小企業版SBTを取得しました！

当社は、温室効果ガス削減のための科学的根拠に基づく目標を掲げ、「中小企業版SBT」を取得しました。

✔ SBTとは？

SBT(Science Based Targets)とは、企業がパリ協定の目標(1.5℃目標)に沿った温室効果ガス削減目標を設定するための国際的な枠組みです。

✔ 徳永製茶の目標

基準年度	2021年度
目標年度	2030年度
目標削減率	42%
目標年度排出量	17.1t-CO2 (2023年度達成済み)

開示目標の達成に向け、削減計画を実行していきます。



DRIVING AMBITIOUS CORPORATE CLIMATE ACTION